

令和3年度第1回

さいたま市地域包括支援センター

運営協議会資料

(当日配布資料)

一 目 次

【報告（２）】

令和３年度さいたま市地域包括支援センター事業計画書について

..... 1

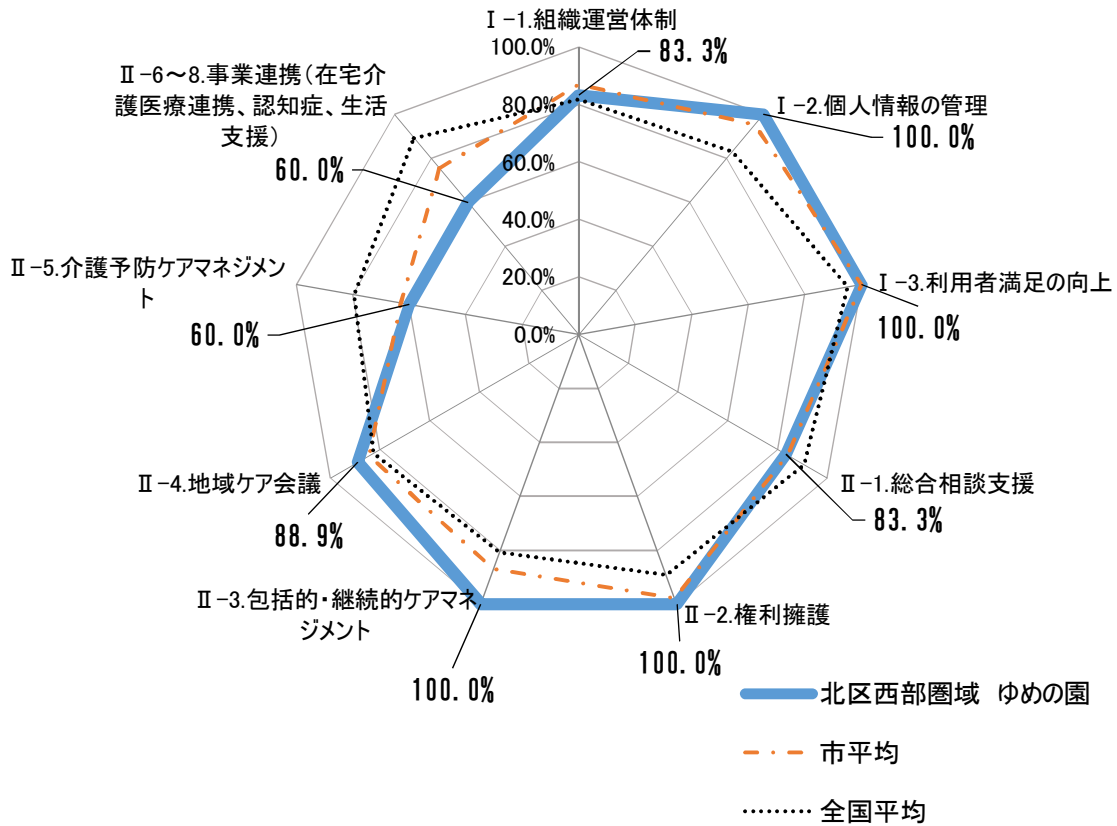
※事前送付資料の148ページと149ページの間に北区西部圏域地域包括支援センターゆめの園の事業計画書を追加するものです。

令和3年度 事業計画書

| I. 担当圏域 | | | | | | | | |
|------------------------|--|--------|-------|--------|-------|---------|---------|------|
| 行政区 | 02北区 | | | | | | | |
| 日常生活圏域 | 05北区西部 | | | | | | | |
| センター名称 | 北区西部圏域 ゆめの園 | | | | | | | |
| 圏域の状況 (令和2年10月1日時点) | 総人口 | 高齢者人口 | 高齢化率 | 認定者数 | 認定率 | 要支援認定者数 | 要介護認定者数 | |
| | 42,924人 | 9,597人 | 22.4% | 1,681人 | 17.5% | 442人 | 1,239人 | |
| | 内訳 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 |
| | 人数 | 247人 | 195人 | 380人 | 292人 | 249人 | 188人 | 130人 |
| | 率 | 14.7% | 11.6% | 22.6% | 17.4% | 14.8% | 11.2% | 7.7% |
| 行政区の現状と課題 (第8期計画抜粋) | <p>北区の高齢化率は10区の中では低いほうですが、アンケート調査ではひとり暮らしの割合が高くなっています。「どなたかと食事をとる機会がありますか」の設問に対しても「ほとんどない」と回答した割合が高く、孤食の割合が高い様子が伺えるため、高齢者が孤立しない地域づくりが重要といえます。「ひとり暮らしになった場合や、日中一人になるような際に、見守り支援やサービスを受けたいですか」の設問において、北区では「受けたい」の割合が高くなっていることも孤立に対する憂いを反映するものと思われます。また、北区は「口の渇きが気になりますか」の設問に対して「はい」と回答した割合が高く、口腔機能が低下している人の割合が市の平均より高めです。口腔機能が低下することにより、食事摂取量の減少に伴う体力の低下や人や社会との関わりの減少を招く可能性もあるため、低下を予防する働きかけが必要です。</p> <p>高齢になっても、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けられるよう、高齢者生活支援体制の整備を推進する必要があります。</p> <p>認知症の方やそのご家族が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、引き続き認知症への正しい理解や相談窓口の普及啓発に努めることが重要です。</p> | | | | | | | |
| 圏域の現状と課題 | <p>顔の見える関係づくりを目指すため、自治会や地区社協、民生委員やケアマネジャー・介護サービス事業者と定期的に合同勉強会や認知症高齢者あんしん声かけ体験など合同で行える取組みを増やしています。</p> <p>年々、独居や認知症高齢者、精神疾患などの相談も増え、地域の中で孤立している方に対するの把握や早期の介入・対応が課題です。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響により、人との交流や運動する場が減ってしまい、物忘れやうつ、フレイル発生リスクのある高齢者が増えてきているのが課題です。</p> | | | | | | | |
| 担当圏域の状況を踏 まえた長期目標 | <p>民生委員や自治会等の連携を強化し、いきいき百歳体操・介護者サロン等の活動を増やしていきます。引き続き、社会との繋がりをもたせる環境づくりやフレイル予防ができる取組みを推進し、医療・介護関係機関等の連携の強化を図っていきます。</p> | | | | | | | |

II. 前年度実績

令和2年度 地域包括支援センター運営状況調査



前年度の総括

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域活動が制限され、対応に苦慮した1年となりました。

年間の重点取組として、活動の少ない地域に通いの場を作るため、介護施設の一画でフレイル予防講座を開催しました。新型コロナウイルス感染症のため外出を控え、高齢者のフレイルの進行を予防する対策として有効であると感じました。

また、もう一つの重点取組では、認知症高齢者あんしん声かけ体験を民生委員、ケアマネジャー、介護者サービス事業所と共同で開催しました。引き続き、社会との繋がりをもたせる環境づくり、地域活動の場所や数を増やしていく取組みを継続していきます。

Ⅲ. 年間重点事業

①年間重点取組事項

| | | |
|-------------|--------|--|
| 目 標 ① | 取組事項 | ・交流の場や運動する場を増やしていく。 |
| | 達成数値目標 | ・ウォーキンググループを新たに1ヶ所立ち上げる。 ・日進2丁目に介護者サロンを1ヶ所立ち上げる。 |
| 目 標 ② | 取組事項 | ・閉じこもり傾向が強く、地域とのつながりが少ない方（独居、認知症、精神疾患など）に対して、地域包括支援センターの案内や地域活動の紹介、見守り等の必要な支援へ結びつけていく。 |
| | 達成数値目標 | ・見守り対象支援者リストを作成。対象者の病状や心身の状態、生活状況等を踏まえ、月に1、2回見守り支援等を行う。 ・地域住民に向けた地域包括支援センター案内チラシを作成。自治会毎に回覧板で回したり、医療機関やスーパー、公共施設等へ配布する。 |

②地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）や協議体と連携した取組

- ・地域資源の情報収集を継続。地域活動マップを年に1回更新します。
- ・地域の情報源のひとつとして、ゆめの園新聞を発行します。
- ・地域の関係者間ネットワーク構築のため、地域支え合い連絡会を年3回以上開催します。

③その他の取組

- ・在宅介護支援センターと連携し、高齢者見守り支援の強化を図っていきます。
- ・ケアマネジャー支援として、ZOOMを活用した勉強会や会議を増やしていきます。

IV. ロードマップ

| 項目 | 現状・課題 | 目標（目指す姿） | 具体的な施策 | | |
|-----------------------|--|--|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| | | | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| 総合相談支援 | 高齢者の増加に伴い相談内容も多様化・複雑化している。 | ニーズに合った専門機関と協働しながら支援ができるようになる。 | 地域包括支援センターの周知を行う。 | 地域の社会資源を発掘・整理。情報発信していく。 | 関係機関とのネットワーク強化。 |
| 権利擁護 | 権利擁護（虐待、成年後見制度）の背景が複雑で、専門職の負担が大きい。 | 高齢になって様々な社会生活上の困難を抱えても、安心して生活できる地域を目指す。 | ケアマネジャーや住民向けの出前講座を開催。 | ケアマネジャーや住民向けの出前講座を開催。 | 権利擁護についての様々な相談機関との支援体制を強化していく。 |
| 包括的・継続的ケアマネジメント | 多問題ケースが増え、介護支援専門員の負担が大きくなってきている。 | 介護支援専門員が多種協働で問題解決ができるネットワークの構築を目指す。 | ZOOMを活用したケアマネジャーの勉強会・研修を開催。 | ICTを活用し、情報共有ツールを構築していく。 | 様々な関係機関とICTを活用した相談支援ネットワークを作る。 |
| 地域ケア会議 | 地域の課題やインフォーマルサービス・地域活動についての共有化が必要。 | 地域課題を共有し、関係機関の役割や資源の調整・開発を目指すしていく。 | 自立支援型の地域ケア会議の開催。 | 自立支援型の地域ケア会議を通して地域課題が共有できる。 | 地域の課題解決に向けた取組が実践できる。 |
| 介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援 | 地域活動は増えたが、歩行が困難な方は介護保険を利用せざる得ない状況が続いている。 | 自立支援・介護予防に資するケアマネジメントと多様なサービスが一体的に提供できる。 | 住民主体による支援や多様インフォーマルサービスを共有し、利用を促進。 | 住民主体による支援や多様インフォーマルサービスを共有し、利用を促進。 | 住民主体による支援や多様インフォーマルサービスを共有し、利用を促進。 |
| 一般介護予防 | 感染症の拡大により、人との交流が制限され、閉じこもりやフレイル状態の方が増えた。 | 地域住民が健康管理や介護予防の必要性を理解し、地域の中で主体的に活動できる。 | 一般介護予防事業について周知・普及をしながら参加促進ができる。 | 一般介護予防事業について周知・普及をしながら参加促進ができる。 | 住民主体の運動グループの交流会を通し、更なる活性化を図る。 |
| 在宅医療・介護連携 | 医療機関との意見交換する機会が少ない。 | 医療・介護が互いに顔が見え、連携が取りやすい関係を構築する。 | 医療機関と介護事業所の意見交換会の開催。 | 医療機関と介護事業所の意見交換会の開催。 | 医療と介護がICTを有効に活用した取組が行える。 |
| 認知症高齢者支援 | 総合相談で認知症に関する相談が増えている。 | 認知症高齢者や家族を支える仕組み作りを強化する。 | 認知症サポーター養成講座や徘徊声掛け訓練の実施。 | 認知症サポーター養成講座や徘徊声掛け訓練の実施。 | 認知症サポーター養成講座や徘徊声掛け訓練の実施。 |